

独立行政法人国立国語研究所「病院の言葉」委員会 第7回実務委員会  
議事要旨

1. 日時 平成20年8月26日(水) 14:30~17:30
2. 場所 国立国語研究所大会議室
3. 出席者 杉戸委員長, 関根委員, 中山委員, 三浦委員, 吉山委員, 徳重委員,  
相澤委員, 吉岡委員, 田中委員

4. 会議の概要

(1) 第6回「病院の言葉」委員会実務委員会の記録の確認

- ・第6回実務委員会の議事録と議事要旨を確認した。

(2) 活動スケジュールの確認が行われ, 次のことが提案され, 了承された。

- ・これまで第3回全体会(9/12)で中間報告案を確定させる予定であったが, 確定までにはさらに検討が必要であるため, 9月下旬に第8回実務委員会を, 9月末から10月初めに第4回全体会を, 追加開催する。
- ・中間報告案の作成のための検討が不十分な部分を討議するための特別作業班を編成し, 第3回全体会(9/12)までに検討会議を開催する。

(3) 「病院の言葉を分かりやすくする提案(中間報告)」について

- ・「病院の言葉を分かりやすくする提案(中間報告)」について討議し, 次のことを決定した。

- ① これまでの類型C「誤解の回避を」を類型B「分かりやすい説明を」の下位分類に位置づけ, 類型を次の四類型に改める。なお, 類型Cの有りようは更に検討する。

類型A「日常語で言い換えを」

類型B「分かりやすい説明を」

B-1「正しい意味を」

B-2「確かな知識を」

B-3「リスクの回避を」

類型C「不安の軽減を」

類型D「重要な新概念の普及を」

- ② 類型A「日常語で言い換えを」に取り上げる語を数語追加する。

- ③ 類型B「分かりやすい説明を」のうち記述内容に問題のある語は、場合によっては提案に取り上げないことも検討する。同時に、医療従事者の用語意識調査で数値の高かった「頓服」などを提案に加えることを検討する。
- ④ 類型C「不安の軽減を」で扱う語は「腫瘍」「悪性腫瘍」の2語に絞り、残りは他の類型に回す方向で検討し直す。類型Cで重要な、伝える場面別の配慮に関する記述は、[効果的な言葉遣い][ここに注意]などに盛り込むこととする。
- ⑤ 類型D「重要な新概念の普及を」に属する「クリニカルパス」は、記述内容を見直した上で、原案のとおり類型Dで取り上げることにする。

## 5. 討議における主な意見

### 「病院の言葉を分かりやすくする提案（中間報告）」について

#### ① 類型B「分かりやすい説明を」の下位区分について

- ・「誤解の回避を」の類型を、類型B「分かりやすい説明を」の下位区分に入れることは、誤解がリスクにつながる重大な問題を見えにくくするのではないか。
- ・誤解の類型が、分かりやすい説明の類型に近付いた印象。類型B「分かりやすい説明を」の下に「正しい意味を」「確かな知識を」「誤解の回避を」と三分類を立てるやり方ならば、かえって分かりやすくて良い。
- ・誤解の類型以外に入っている語にも、「こんな誤解がある」という項目があり、誤解についての記述がダブっている。誤解の類型の表題を「リスクの回避を」などに変更し、類型B「分かりやすい説明を」の下に置くことにしてはどうか。

#### ② 類型Aで取り上げる語について

- ・非医療従事者に対する理解度調査の結果をもとに線引きをした結果、類型A「日常語で言い換えを」に入れる言葉が減った。しかし、候補の100語以外の医療用語全般を見れば、類型Aが最も多いと考えられ、問題も多様なので、もう少し提案する言葉を増やしたい。100語の候補に入っているもののなかから、医療従事者調査で医療従事者がよく使うことが分かっている「誤嚥」「重篤」を加えたい。

#### ③ 類型Bで取り上げる語について

- ・類型Bの中には、分かりやすく説明することが非常に難しい言葉として、「黄だん」「自律神経失調症」「うつ病」などが入っている。これらの記述内容は再度検討し、提案する必要性の高さについても再検討することにした。
- ・医療従事者に対する用語意識調査で、取り上げる必要性の高さが示唆された語に「血

糖」「頓服」がある。「血糖」は「糖尿病」や「インスリン」の関連語として触れているが「頓服」はどこにも出てこない。新たに見出しを立てて、類型Bに取り上げたい。

#### ④ 類型C「不安の軽減を」の扱いについて

- この類型は、言葉の意味概念を伝えることよりも、不安の軽減を目指すものであるが、現在の記述案ではこの狙いが十分に生かされていない。
- この類型の言葉は、患者ひとりひとりに異なる対応が求められるものであり、他の類型とは発想を変える必要がある。
- 「重大性を伝えたい場面」「過度の不安を抱かせないように伝えたい場面」などのように、場面を設定して言葉遣いの例を示し、それを組み合わせて使ってもらえるような工夫をするのもよいかもしれない。その場合、見出しは単語ではなく場面にすることも考えられる。
- この類型は他の類型と異なり、単語の意味よりもコミュニケーションにかかわる内容である。本提案の原点に立ち返ると、場面別のコミュニケーションを前面に出すのは避けるべきではないか。場面による解説はコラムなど付帯的な扱いとしたい。
- 「腫瘍」「悪性腫瘍」の2語は、言葉の説明が必要になるものであるので、この類型はこの2語に絞ることを検討してはどうか。不安の軽減をはかるべき言葉の群があることを類型に示すことは重要であるので、類型を示した上で、中身は言葉の意味の解説を本体とする姿勢を貫きたい。

#### ⑤ 類型D「重要な新概念の普及を」における「クリニカルパス」の扱いについて

- 「クリニカルパス」を患者に提示する場合には「診療スケジュール表」などとして渡して説明すればそれで済む。患者が言葉とともに知る必要のある概念であるか、疑問である。
- 「クリニカルパス」には、診療のスケジュールだけでなく、これからの治療内容や治療のガイドライン、最終的なゴールなども含まれる。スケジュール表というよりは、医療の質を上げていくためのひとつのツールであり、「診療スケジュール表」という言葉では表せない意味がある。
- 「クリニカルパス」は医療の質を担保しているという証拠となるものであり、これを示すことは医療者側の患者に対する大きなサービスである。また「クリニカルパス」は、過去の研究や調査から患者に最も有利な内容を示すものであり、それが示せるかどうかは医療者側の力量を表している。提供される診療内容を検証する意味でも、患者は「クリニカルパス」を理解し、利用した方が良い。
- 「クリニカルパス」という言葉が普及すれば、患者の側から医療者側に求めること

ができるようになる。言葉を知ることが患者の利益につながるのであれば、類型Dとして取り上げて良いだろう。

- 調査によると、現状では、「クリニカルパス」という言葉を概念も含めて使用している医療従事者は約半数にとどまる。また非医療従事者の認知率も非常に低い。そのため普及過程では「クリニカルパス」を単独で用いずに普及に役立つ別の言葉を添える必要がある。「診療スケジュール表」では不適切であるとする別々の言葉を検討する必要がある。

以上